

の如く読本使用に關する件につき、提案者の説
 明は、ビリー日本語教育令に於て二世教育
 の基礎方針として「善良なる力」を市民に育
 てゐることは決定してゐる。日本読本は思想的
 に、その根本方針に反する。加へてその欠
 の解決のために新読本を作つたのが、所謂所加物
 読本であるから、吾等自身の読本が出来ると
 て、加へて読本を使用すべきである。加へて読本
 の思想内容は力十分と強固である。或る
 代表はいふ。親達は今日本精神を教育するに

10X20

K-2

は加読本は駄目だといひ、或る教師は加
 物読本は編輯者が文部省の読本のやうに眞の
 語學者でないから、文部的に考つてゐるし
 へネー「吾吾は日本読本に盛られ、日本
 民思想が、善良な力がある人を作る上に妨
 があるを重要視するに對して日本思想は之
 此を古今に通じて誤らず、中外に施して停
 ず、であるから力加は於ても善い筈である
 し、この頃日本人社会は一般的に日本精神
 と大和魂などと言ふ味も解らず流行語に於つ

10x20

K-3

子夏一文一

10X20

附

語学校教師として、婦人會幹部として長年

尽力され、在吉野悦子さんは義女栄嬢を同伴帰

王せられ、左。

同年、自動車運転試験が一般に執行され、

日本人ホルルを行はれ、山永氏の通訳で四十

八名受験一口答へ全部合格す。当人の日本人

の約半数は自動車持ちで英語が解るため、通

訳つてを受験を許され、左の如うなり。

10X20

1人

10X20

下
 きたの
 土地を
 買つて
 面性す
 此は、
 日本
 か
 親属の
 呼寄せ
 が出来
 るのと、
 日本人
 漢者
 の
 ライセ
 ンス削
 減で、
 漢者か
 職業し
 て来る
 者
 多
 くと、
 日系農
 家は急
 激に増
 加した
 のその
 人
 達ば
 毎は作
 るが売
 り方は
 青物問
 屋へ依
 托販売
 す
 る以外
 の方法
 を知ら
 ぬ。闇
 雲に近
 郷市場
 山東市
 場へ送
 り出し、
 市場を
 混乱さ
 せる一
 九
 廿五
 年次か
 らた
 んだ
 ん悪化
 一
 九
 廿八
 年次
 は市
 場混
 乱の絶
 頂に達
 した。その頃
 四十
 竹相
 依
 托
 販売
 山東市場へ
 送り一
 弗五十
 仙の仕
 切り

10X20

h-2

よ	つ	三	バ	四	英	英	八	出	十
し	て	英	リ	五	加	農	年	し	ヤ
あ	い	加	一	〇	、	家	の	し	キ
し	る	に	三	戸	ラ	、	哪	た	が
で	か	対	〇	を	ス	白	政	と	来
収	、	し	二	ス	バ	人	府	か	た
穫	同	日	英	ト	リ	九	農	の	と
音	じ	系	加	ロ	一	三	務	話	か
に	一	の	、	バ	六	五	省	し	廿
大	英	は	耕	リ	九	五	の	ば	箱
差	加	一	作	一	五	英	統	ざ	出
が	の	五	及	二	加	加	計	う	し
あ	英	九	別	九	に	ト	に	に	て
る	で	九	統	七	対	ロ	依	あ	運
事	も	英	計	英	し	バ	る	つ	送
は	、	加	日	加	、	リ	と	た	貨
い	年	の	人	、	日	一	、	の	を
ろ	入	比	一	ラ	系	五	哪	一	十
子	北	に	二	ス	は	七	内	九	二
で	の	あ	七			九	の	二	弗
									手

10x20

4-3

もあり。事実上フレハバレーの苺総生産量の
 八割強は日系農家が生産したものであった。
 元来ビレーの苺業は、晩島のゴールデ
 ーの下の英系農家が下世紀の始め頃から作
 始めたもので、初めは珍らしいものでビ
 ャーバレーの言葉には売れ残りのたが、
 儲かる植えつけ及別を増やすのが農家の
 意図。一九五五年頃の最盛期には冷蔵貨車
 でアルバタから東の山東市場に一期に五
 十トン、車一往復で約七百箱積み出し、
 北

10X20

14

に有利に売り捌いた。その後白人独占
 の近東市場へ、第一世界大戦に年々増加する
 本土の日系農家が、C P と C N 西鉄道と南米
 フレキ、各駅から、年統制の依託販売品が共
 水のやうに山東市場にあられ入り、市場を占
 はしかう潰し、混乱状態に陥れた。普通は走
 り替の初荷は十日くらいは品物が安値に売れ
 るのをあきらめ、出初め二、三日で市場は目下
 し、依託販売品が売れあがり、激を生じ、煙草に
 捨てられ、運賃と捨て賃を任せて農家が手出しせぬ

10x20

1-5

ばあやぬう時子能心が頻々として起つた。貨
 車積みも売れぬ。投売りせねばあやぬ。気候
 の関係が本土の苗は晩島より一週間遅かり
 早く出るのと、本土の苗に市場を荒され、日
 々白共に苗農家は共殺死れの悲境に陥つた。こ
 うした状態が数年続いたのを、晩島の英系農
 家は、しびれを感ずし、その生存権を守る唯
 一の途として、日系農家の進出を食ひ止める
 決意をした。そこで北には排斥協会の協力をあつ
 て、一九二五年頃のじり果物業者協会に

10x20

L-6

田舎してビ、シ、エ、フ、ジ、エ、の、今、金、に、フ、に、
 一、シ、一、妙、内、に、於、て、東、洋、人、の、土、地、所、有、及、び、借、
 地、を、越、え、止、す、る、法、~~案~~、研、究、委、員、會、に、を、設、置、し、フ、
 ワ、ム、エ、ド、ホ、ム、推、進、を、本、據、と、し、て、排、
 日、の、氣、勢、を、揚、げ、て、運、動、を、続、け、た、の、こ、れ、は、一、般、
 的、人、種、偏、見、を、は、ら、く、強、濟、的、に、白、人、農、家、の、生、
 存、権、か、ら、出、た、急、劇、的、な、こ、の、こ、の、あ、つ、た、の、
 日、本、農、家、は、英、字、新、報、も、雜、誌、も、読、め、あ、い、時、代、
 知、ら、ぬ、か、佛、語、も、讀、め、い、た、が、こ、の、市、場、に、
 亂、の、主、任、の、大、部、分、は、市、場、組、織、と、委、託、販、売、の、

10x20

L-7

危険を理解せしめ、やたらに山東市場の
送りに出せしめた日系農家に在り、こと
日系農村指導者達は、先づフレチ各地
日系農家の連絡機関を作り、力加知日
村農務当路と提携し、市場監督官知ラ
を各地に招いて、山東市場混乱の現状
細に説明して、中々い、その解決策とし
日、其の聯合販売組合の總体必要を説
フレチ、南支の広い地域に散在する日
の協同運動は、決して、なまやさしい
ものではない

10X20

1. C

代	つ	フ	一	〇	社	合	勝	フ	あ
表	た	、	九	そ	東	会	年	オ	か
に	〇	、	二	し	ど	は	じ	レ	つ
山	フ	、	八	を	を	、	や	の	た
以	レ	エ	十	日	招	機	ふ	作	〇
知	中	一	、	、	待	会	い	つ	白
た	南	に	日	日	し	あ	か	た	人
郎	岸	加	系	農	て	有	し	も	農
西	代	入	農	家	車	毎	、	の	家
氏	表	し	家	の	々	に	と	を	の
と	と	、	約	連	大	日	荒	オ	楽
美	し	年	三	絡	人	か	い	レ	論
っ	能	令	西	の	教	人	世	が	ふ
た	谷	に	名	手	育	会	界	ド	と
〇	次	代	が	始	に	、	、	コ	考
二	郎	表	び	め	汗	領	で	は	へ
の	、	者	一	と	を	、	、	売	も
一	此	を	二	し	か	新	農	ろ	い
斗	岸	送	一	て	い	夢	有	う	か
の			工	、	左		聯	と	
大									

10x20

1-9

会は今口十を閉かれた。この大会に於て一
洋人土地所有及び借地禁止期成委員の研究
報告が終るや、日本人代表は直ちに發言を求
め、「これより日本農家は、生果市場に關し無
知であつたために、自他共に損害を受けてい
た事を、知らせしめ監督官の一周間に亘る巡
其母に依つて悟る事が出来たのと、先づ本
會に入会すると共に、日本農家の間を法目
下、聯合販売の運動をしており、明年度の季
節からではじまり、一ヶ月の聯合販売機關に

10X20

1. 17.

を運動を進める確信を持つておる。また本協
会が研究中の「天産物市場管理法」の趣意に
賛成である。そして今後はいじりかしの全農
家と同一の販売制^統下に市場の機会均等を期
するものがある。と報告した。
この日系代表の声明は、大会に大波紋を投
じた。排日の対象となつていた日本人が協同
運動を始め、賛否殆ど同数だった市場管理法に
賛成側に立つたからである。この協会の名譽を
辱す、じいじい農科のバリス博士は、直ちに

10X20

L-11

収束急動議を申し、排日法期成研究委員会の即
 時解散を提議し、満場一致通過した。これに
 排日の第一関門は突破した。これから日、白
 物同販売の実現運動に依つて英系農家の輿論
 を轉向し排日土地法を放棄せねばならぬ。
 フレチーは、日系各地の指導者達は毎年の農閑
 期を利用して、各地に研究会や市場講演会を
 開いて、日系農家の啓蒙につとめ、協同運動の
 重要性をあらゆる機会に強調した結果、州領
 農務省当局者及び日本人会の幹旋により、晩

10x20

1-17

島の英系苺組合当局者と、フレサー底地の日
系農家の連合会とが、會合場として、季節前
に、ヤマ苺の売價の協定、収穫予想等の交換
、害虫駆除、土壤、肥料、副業などの研究を
共にし、進んで聯合販売り、及び生産苺全部を
唯一の協同組合フロイカー、エフ、デー
ー、一手に統制し、山東三州の全市場に於て、
苺の配給を山滑にし、市内の日本農家全体
に、機會均等と最良市價を享有せしめ得る大群
合販売機の運営が山滑に出来るようである

10X20

までの七、八十年間の農村指導者達の苦闘は想
像に餘るものがあった。併しそれは「排日土
地法」の通過前に、曰、白協同の實現に依つ
て抹消し得た一事で充分に酬いられたばかり
を全く、真の協同の成果としての農家の市場
の安定と利益を基産業に^金もたらした高遠の理
想の實現でもあった。

これはジョーシが日本人農歩史上に特筆さ
るべき一極であらねばならぬ。

10X20

L-14

晩島と本土の日、白農家の交歓
 一時は人種偏見と、市場攪乱者として日系
 の土地所有や借地の林業止を法律化せんとし、
 仇敵の如く排撃をされていった本土の日系農家を
 晩島英系農家が人種こそちがえ、同業の協同
 者として温情あられる招待状を本土の英組合
 連合会に送つて来た。

一九四七年十月二日、晩島サニツキ、
 イルデニハツト、キレテニ知三組合聯合会、
 本土の日白組合代表を招待して、サニツキ、
 二ツキ

10x20

L-16

次下遜加原稿で前園来た

を参観した。これは同島農家の協同組合
 にあるもので、約百万がロシ貯蔵して
 いう。それから世界で二と言はれる天文
 学に上った。すれ處いに英皇戴冠式御臨
 幸余の秩父の宮殿下一行が下山する所
 った。敬愛の敵軍さから見た、時局極
 る変。となつた。それからサ一ニ
 の農子試験場に案内され、苗の新種の試
 肥料テストなど興味をひいた。それから
 ニッパ組合、ホテルに着いたのは午前十

10X20

L-1

會社を參觀した。これは同島農家の協同組合
経営にあるものを、約百万が口で貯蓄してい
るという。それから世界で二と言はれる天文
台見學に上つた。すれ處に英皇戴冠式の監
席の帰途の秩父の宮殿下一行が下山する所
であつた。敬愛の嚴重さから見た、時局極
度交り変へようなづかれた。それからサ
ウチの農家試験場は案内を、毎の新種の試
作、肥料テストなど興味をひいた。それから
サトウキビ組合の案内に着いたのは午前十

10X20

L-1

時半頃であつた。そこには英系農家の三組合か
 ら多勢集まつて、吾等のために立派な温情に
 充ちたラニヤが用意されてゐた。そこには
 知ハウスがあつて、こゝで茶見當時から
 の歴史的記念物が宝物として保存されてあり
 、バドソベリ合社の毛皮交易時代の遺物が
 沢山陳列されてゐた。
 昼餐食はサニヤ組合長のオナールフ
 ド氏がカトストマス、タリフセー大尉一同
 組合員配人が三組合を代表して歓迎の辭を

10X20

1-18-2

承てた
「吾々、業者が政治、運輸、その他農家の利
益のためにする諸運動が果々しく成績を挙げた
といふのは、本土の一々農家と一致団結し得
たからである。吾々同業者は一層協同を固く
して、幾多の共通問題と取り組まねばならぬ
。諸君本土の人々と結束を固めるためにお振
舞した訳である」と承てた。本土側から「キ
キ、テ、ラー、ラー、キ、三氏の謝辞があり、
山家氏は「今回此日を中心から招待を受けたりは

10X20

本
土
の
五
吾
と
皆
さ
ん
と
を
一
層
近
く
結
び
つ
け
る
深
い
意
義
が
あ
る
を
誠
に
感
謝
に
た
え
あ
い
の
私
は
フ
レ
キ
バ
レ
ー
の
日
系
農
家
全
体
か
ら
映
島
の
皆
さん
全
体
に
喜
び
と
友
交
を
以
て
傳
へ
す
る
光
榮
を
も
つ
。
協
同
組
合
運
動
の
中
に
農
家
の
協
同
運
動
が
一
番
困
難
と
さ
れ
て
い
る
。
五
吾
は
十
数
年
前
か
ら
農
家
の
協
同
の
利
益
を
認
め
、
地
方
的
に
組
合
を
作
り
、
そ
の
基
礎
組
合
が
集
ま
つ
て
比
日
々
の
組
合
と
大
聯
合
販
売
組
合
に
な
り
上
げ
ま
し
た
。
日
本
人
は
言
葉
と
皮
膚
の
色
は
異
な
つ
て
い
て
も
、
よ
く
つ
き
合
つ

10x20

て見て下さい決して恐しい人望ではありませ
んの特に苺農家としての利害は皆さんと同一
であるをお忘れなく、益々協同の強固につ
とめませう。四十年前にはワグビーに苺を積んで
ビクトリヤ市場に出す前に農家が集ってその
日の売價を協定したという、当地の協同運動
の創始者先輩達に深い敬意を表し、今日の市振
待を感謝しますと結んだ。

10x20

加	四	う	五	推	英	世	待	父	一
方	早	方	方	高	日	ハ	言	方	元
女	日	方	方	高	佛	ハ	言	方	世
教	投	方	方	高	教	ハ	言	方	世
師	花	方	方	高	師	ハ	言	方	世
田	花	方	方	高	大	ハ	言	方	世
共	花	方	方	高	七	ハ	言	方	世
学	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
日	花	方	方	高	一	ハ	言	方	世
本	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
工	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
司	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
中	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
本	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
学	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
校	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
長	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
年	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
十	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
月	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世
十	花	方	方	高	年	ハ	言	方	世

10x20

日本観光

千歳救済

血書

プリトニ女史は日本各地を観光した外、
 日本舞踊の沢柳師匠に師事し、「藤娘」の踊
 を習った。十二月に帰加して各地で日本観
 光の写真を映写し、「ふじ娘」を踊つて、日
 本の観光客を銘記させた。この日本交通公社の
 観光宣伝の価値は充分に発揮されたり、金
 三一九年十月八日、山東省サス力ケワ
 の千鰲区域二十万農民の救済運動はビ
 ン各地で行はれて居たが、文才と力
 地方でも合同教合その他三宗派が協力して

日本舞踊

千鰲救済

文才と力

10X20

5

四、牧師、マセラム村長、山家の諸氏幹部と共
り、古兵協会、白鳩人会、商業会、議所の諸団
体が援助し、村内各戸の委員が戸別訪問した
り、日本人側はオノヅク、ハネー、ハモロド三
農会長が方面委員とあつて應援し、野菜、木
デト、人参、蕪等、合計六トに現金寄附
三、~~五~~百五十四弗を貸付た。この現金はシヤム、
鐵、鋸、鋸、食料品に代へた。全部で四十六トに
余を二大貨車に満載して、救済本部の指令に
従つて一貨車はサカパニシエト村へ、他は

10x20
16

同町ケドルスト村へ向け祭送した。この年
 へネー地方の農家は一般に凶作続きで強情
 的。中国難民からにも拘り。鉄えり。サ
 民。た。れ。執心。協力。援助。を。惜。ま。な。か。つ。た。り
 、特。に。メ。ソ。ル。リ。ワ。組。合。が。そ。の。倉。庫。を。開
 放。し。て。荷。物。を。受。取。り。仕。分。け。積。み。込。み。祭
 送。一。切。を。奉。仕。した。り。を。賞。揚。し。新。少。は。書。き。立。て。た。り

10x20-

7